

滋賀県精神保健福祉協会だより

平成二十四年度 滋賀県精神保健福祉協会調査研究部会事業 「結婚と就労を語ろう」に参加して

長浜保健所 村井 あき

平成二十四年十月十三日（土）十三時三十分～十五時三十分、長浜市にある障害者支援センターそらにおいて、

「就労と結婚を語ろう!!」をテーマに約三十名の方々が参加されました。滋賀県精神保健福祉協会の調査研究部会事業によるこのテーマで、今年で四回目となります。湖南クリニックの植林医師と世一クリニックの世一医師による進行のもと、前半は、体験発表、途中コーヒープレイクをはさんで、後半

はグループに分かれて意見交換会が行われました。

体験発表では、湖北地域に在住の精神しょうがいをもつ女性（Aさん）と、精神しょうがいの妻をもつ男性（高橋信義氏）から体験発表がありました。

Aさんは、結婚・出産後に発病され、入退院を繰り返す日々。

そして、今では仕事を始めて6年目を迎え、自分なりに幻聴や妄想といった病気とつきあいながらも、自身の体調が悪くなる兆候を見逃さず、早期に受診するなど対処しながら、職場に迷惑がからないうよう、自分なりに工夫しながら働かれている様子をお話下さいました。「仕事を続けたい」という思いの背景には、人と接する仕事にやりがいを感じ、人の役に立ちたい、人として成長し続けたい、という強い思いがあるということが話の中から感じられました。

自分で病気と付き合い、コントロールできるようなっても、うまくいかない日もあるけれど、同じ病気を持つ仲間がいる、と思うと勇気づけられる、

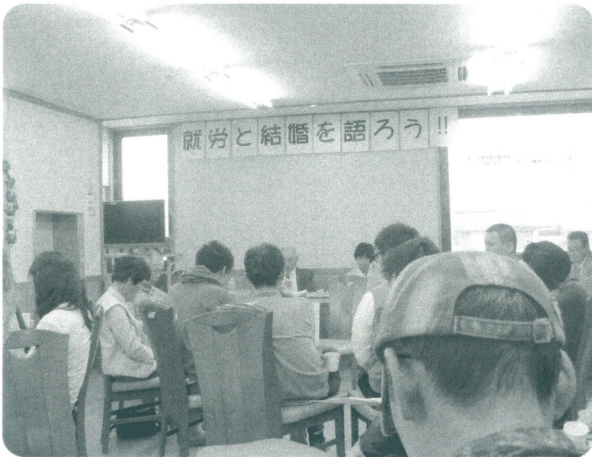


と話されていたのが心に残りました。

高橋信義さんは、長浜地域の家族会「萌芽の会」の会長で、萌芽の会を立ち上げるなどこれまで湖北地域の家族会活動の中心で活動されてきた、八十三歳の男性です。

高橋さんの奥様が発病されたのは三十八歳のとき。働かれていた奥様に仕事をやめさせ、日本各地を旅行に連れて歩くことで、病気を治そうと思われていました。しかし、入退院を繰り返す日々の中で、治療の重要性に気が付かれたようです。

それからは、毎月、奥様の通院に付き添い、一緒に病気と向き合うようになられたようです。奥様との葛藤の日々



を、短歌にされ、今でも大切に残されています。

参加者に発表された中の一部をご紹介します。

○我なりに 努力はするが 氣負いせず 妻を守りて 生きんと思つ

○空耳を 固く信じる 妻と居て 日も新たな 冒険の旅

○言うことが コロコロ変わる 妻なれど 黙っておれば 側に寄りくる

こうして、短歌に思いを込めることで、自分自身を見つめなおし、奥様と共に前を向いて歩んでこられたようです。

高橋さんから、会場の方へのメッセージでは、「誰だって弱い心は持っている。しかし、ひとつくらいは自分にはできないものを持っている。失敗してもくじけない心も大切。そして妻と二人の暮らしや介護は自分にはできない、天が与えた使命だと思う。デバイスやショートステイをうまく活用しながら、妻の介護をやりぬく決意で頑張っていく」と話されていました。

参加者からの質問では妻との離婚は考えなかったのか、との質問がありました。高橋さんは「全く考えなかつ

た。妻の介護は私にしかできないこと。しょうがいを持ってもその人の持つ宝がある。それを見つつけ出したい」と答えられていました。

体験発表されたお二人とも、心の病とともに歩まれてきたその人生、心折れそうなときも多々あったはずですが、今、こうして同じ立場にいる人たちとともにこれからも歩もうとされています。仲間の存在がどれだけ自分の心の支えとなるかが、また、自分を信じ、あきらめない心を持つことが、どれだけ自分を強くさせることが。とても感銘を受けました。この機会に参加させていただけたことを、うれしく思います。ありがとうございます。



平成24年度「就労と結婚を語ろう!!」(H24.10.13)アンケート集計結果

- 回答数 9 (参加者34人: スタッフ13人)
- 何で催しを知ったか?
 - ・ ちらし: 2人
 - ・ 広報: 1人
 - ・ 支援センターそら
 - ・ 保健所からの誘い: 6人
- 年齢 20代: 0人、30代: 2人、40代: 4人、50代: 1人、60代: 2人
- 精神保健福祉協会を知っているか?
 - 知っている: 1人 (60代)
 - 聞いたことがある: 3人 (30代: 2人、40代: 1人)
- このような催しがあれば参加したいか?
 - 参加したい: 5人 (30代: 1人、40代: 2人、50代: 1人、60代: 1人)
 - 内容によって参加したい: 4人 (30代: 1人、40代: 1人、50代: 2人)
- 感想
 - * 重複する感想はまとめています。
 - ・ いろいろな事を知れました。大変良かった。
 - ・ とても感動しました。またこのような会があれば参加したいです。
 - ・ 高橋信義さんの体験談から、自分も29歳の時に発病した事を思い出しました。自分も働くのが辛くなり、仕方なく辞めました。それから何回か別の所で働きましたが長く続かず辛い思いをしました。
 - ・ 僕にとって就労と結婚は難しいですが、今日の話は参考になりました。
 - ・ 職場で、いじめられていじめられて、とうとうダメになりました。
 - ・ 二つの職場で20年間働きました。今、詩をいっぱい書きました。
 - ・ これを仕事として生きていきたいと思います。
 - ・ 差別などと戦いながら人生の花を咲かせてみたいと思います。
 - ・ 大切な話を聞けてうれしかった。一人じゃないとつくづく思います。
 - ・ 当事者2名の体験発表は、どちらの方も良かった。
 - ・ 結婚と就労というテーマで語られたので、今後の自分の生活に役立てられると思いました。世一クリニックの世一先生、協会の榎林先生ご出席ありがとうございました。本日の会場の設営に関して、お世話になったスタッフの皆さんありがとうございました。
- 今後の催しへの希望や意見
 - ・ 老後の生活、一人で自立して生きていくことへのアドバイスや体験談を聞きたい。
 - ・ 以前にもこのような話し合いに何回か出席したことがあります。そのつと力をもらっています。協会の事はあまり知りませんが、今後の活動を期待します。
- 今後、このような催しがあれば参加したいか?
 - 参加したい: 5人
 - 内容によって参加したい: 4人

「第5回アディクション・フォーラムin滋賀」報告



講師 月乃光司氏

平成24年7月16日、近江八幡市のG-NETしが（男女共同参画センター）において、「第5回アディクション・フォーラムin滋賀」が開催され、一般住民や自助グループメンバー、行政、医療、福祉関係者など、166名の参加がありました。会場のロビーでは、自助グループのメンバーが「お久しぶり！」と声を掛け合う姿が見られるなど、賑やかに会話が交わされていました。

アディクション・フォーラムは、一般住民や支援関係者などに、アディクション（依存症）という病気の現状や課題、回復に至る経緯を知ってもらおうという目的で、県内の自助グループメンバー（びわこダルク、滋賀県断酒同友会など）や関係機関の有志などで構成するアディクションフォーラム実行委員会が、平成20年から毎年開催しています。

今年は、「仲間を見つけた、希望を見つけた～やめたくてもやめられない～」というテーマのもと、仲間や自助グループの大切さを伝える当事者や家族の体験発表が行われ、自身もアルコール依存症の当事者であった作家の月乃光司氏の講演が行われました。

フォーラムは、午前9時30分から開催され、まず、びわこダルクのメンバーで結成された淡海響組の太鼓演奏がオープニングに行われました。

次に、「仲間の話」と題して、滋賀県断酒同友会（アルコール依存症者の自助グループ）、オリブ（アディクションを持った人や共依存に苦しむ人たちのグループ）、JAM（依存症を持つ女性のグループ）、NA（薬物依存症者の自助グループ）、京都マック（アディクション全般の自助グループ）、ACODAひだまり（子どもの時期を機能不全家族で過ごした成人の自助グループ）、ARM（アディクション全般の自助グループ）のメンバーから、依存症になったきっかけから回復に至るまでの体験談が発表されました。体験談の内容は様々でしたが、とても説得力があり、皆さんが「仲間がいるから、つらい時があっても乗り越えて克服できる。」と呼びかけられていたのが、心に響きました。

お昼の休憩では、会場のステージにて、当事者からの有志による絵本朗読やマンドリンによるバンド演奏が行われ、会場を大いに盛り上げていただきました。

午後の講演では、御自身もアルコール依存症となった経験がある作家兼会社員の月乃光司氏から、『人生何でもあり～アルコール依存症と共に生きる～』をテーマに、御自身の体験談を講演されました。

月乃さんは、高校生の時に自分の顔が醜いと思いこむ醜形恐怖症になり、ひきこもりとなった経緯があり、27歳までアルコール依存症だった過去を明かし、その体験を元に作った詩を朗読されていました。詩は、とてもパワフルで力強く朗読され、聞く人々の心に強く訴えかけられるものでした。

講演後は、再び、「仲間の話」となり、あゆの会（アルコール依存症者を持つ家族の自助グループ）、NA、アルコール依存症のメンバーからの発表がありました。

フォーラムの最後には、県内外にある自助グループを、知らない人達にもっと知ってもらおうと、各自助グループの活動の内容や活動場所を紹介するグループインフォメーションが行われました。

今回のフォーラムは、「やめたくてもやめられない」という当事者の思いと仲間がいることの大切さに焦点を当てて開催されました。実行委員会メンバーや自助グループメンバーの力強さを実感するとともに、実行委員の1人として、今後もアディクション・フォーラムがより良いものとなるよう、努力していきたいと思いました。

（県立精神保健福祉センター 佐藤 周）

第二次世界大戦後のゲール

橋本 明 (愛知県立大学教育福祉学部教授)

今から考えると、ゲールの精神障害者の里親での看護は、1930年代の終わり頃が最盛期だったかもしれません。この小さな街で暮らす患者の数は1939年8月には3,750人に達したと言われ、ピークを迎えていました。しかし、間もなく始まった第二次世界大戦はゲールにも大きな打撃を与え、1944年12月にはその数は2,600人にまで減っていました。

では具体的にどのような状況で、ゲールの患者数が減少したのでしょうか。ヨーロッパで大戦が勃発した翌年、1940年5月にドイツ軍によるベルギー侵攻がはじまると、ゲールの住民の約半数が街から退去しました。南仏まで逃れた人もいるそうです。避難の前に、里子である患者をゲールの精神病院に預ける人がたくさんいました。もともと200床しかない病院に、一時は1,000人以上が入院するという、超過密状態が起こったのです。第4話でも紹介しましたが、1862年にオープンしたこの病院は、多数の入院患者を抱える「普通の」精神病院とは違って、里親のもとで暮らす患者の健康管理がおもな業務ですので、病床数は比較的少ないのです。

1944年9月、ゲールはイギリス軍とドイツ軍との地上戦の舞台となります。数日間の激しい戦闘の結果、140人の市民が犠牲になりました。そのうちの35人が患者でした。患者を預かっていた里親のうち、およそ200の家が破壊され、数百の家に深刻な被害がありました。精神病院も、そしてゲールの精神病患者巡礼のシンボルであった聖ディンプナ教会も相当な被害を受けました(→図1参照)。教会に隣接した病人部屋は完全に破壊されました(第2話にある病人部屋の写真は修復後のものです)。

物的な破壊よりも深刻だったのは、戦争にともなう食糧、衣類、燃料などの生活必需品の不足でした。戦争が始まると食糧は配給制となりました。しかし、配給量は限られていたため、「ヤミ」市場が登場し、通常の10倍、20倍の価格で売られていました。しかし、里親に支払われる患者の看護料程度では「ヤミ」物資を購入することができません。したがって、里親では世話ができない患者を精神病院で預かってもらうほかありませんでした。個人の家よりも病院の方が食糧事情はマシだったということなののでしょうか(ただし、郊外の農家では食糧自給もできたので、こちらに患者を移動させることもあったようです)。しかし、1943年9月にこの病院の大部分がドイツ軍に接収され、患者は別の街の「普通の」つまり閉鎖的な精神病院に移送されることとなります。また、1941年と1942年の厳冬の燃料不足は深刻で、食糧不足とあいまって患者の疾病罹患率や死亡率を高めることになりました。とりわけ、栄養不足による結核感染が多かったようです。もともとゲールの里親での開放的な生活や健康的な食事は、感染のリスクをむしろ低く抑えていたのですが。



図2 1955年ごろのゲールの里親家族と患者

テレビの置かれた部屋が、戦後らしい風景か。

出典：Geel: Rijkskolonie voor familiale verpleging van zenuw- en geesteszieken (1955年に発行されたゲール国立コロニーのパンフレット)



図1 建物上部が破壊された聖ディンプナ教会

前景は1950年に開催された祭りのパレード。教会は1944年9月の戦闘で破壊され、1950年の写真撮影時点ではまだ修復されていない。

出典：vzw Sint-Dimpnacomite: Ter ere van Dimpna. Geel, 2005

第二次世界大戦が終わった後も、ゲールの患者数が戦前の水準に戻ることはありませんでした。1945年から1955年頃までは、2,400人くらいで横ばいです。しかも、それ以降は里親のもとに預けられる患者の数が年々減少しています。1980年には1,000人を割り込み992人、1997年には593人、2006年には460人といった具合で、現在は330人程度ではないでしょうか。減少の原因はいろいろ考えられますが、大局的には産業・労働・家族構造の変化、精神医療の視点から見れば精神障害者の社会復帰プログラムが多様化してきたことが一番大きいと思われる(→図2参照)。

What Gheel means to me

An American who has a
mentally ill daughter describes his
strange but warm experiences
in Belgium's unique town
By JOHN D. J. MOORE

John D. J. Moore, a New York businessman, is donating the fee for this article to the Family Care Foundation Monthly III, which has been organized to further maintain habits and methods practiced in Gheel.

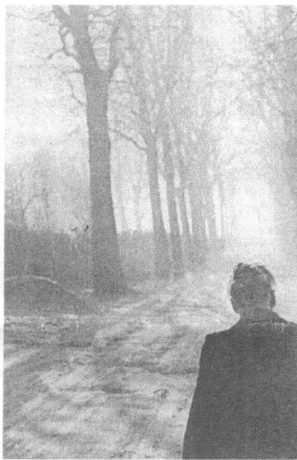


図3 雑誌『ルック』に掲載されたJ・ムーアの記事の一部

「ゲールが私に意味するもの」というタイトルで、精神障害の娘を持つアメリカ人（つまりムーア）が、ベルギーのユニークな街ゲールで経験した奇妙だが心温まる体験をつづる。なお、同ページの写真には「買い物を終えて帰路を楽しむ患者」という説明がついている。

出典：John D.J. Moore: What Gheel means to me. Look, XXV (May 23, 1961). p.35

それまで3年間閉鎖病棟に入院していた。暴力の激しい時期があって、自分の家族とは暮らせなかった」といった説明をします。ローザが下宿している里親を訪れ、今は穏やかになっている彼女の様子をみたムーアは次のように書いています。「私はこれまで見たことがある精神科の閉鎖病棟のことを思った。そこには、ゲールにいるような若い女性が閉じ込められている。あるいは、病棟の中の叫び声や暴力のことを、患者の世話で格闘している働きすぎの看護師や介助人のことを思った。ゲールは素晴らしい」と。ムーアは別の家も訪問し、服装や髪形に乱れない患者を見て、このような患者を精神病院で見ることは稀だと素直に驚くのです。

ゲール訪問の翌年、1960年にムーアは「精神障害者のためのファミリーケア財団」を設立します。ムーアと親しいコロンビア大学の人類学者H・シャピロは、請われてこの財団の役員になりましたが、ムーアが熱く語るゲールに興味を抱きます。このシャピロに、同じくコロンビア大学の社会学者L・スロールが加わって、ゲールに関する徹底的な調査と研究が行われ、ゲール再評価への道が開かれていきました。それが、コロンビア大学とベルギーのルーヴァン・カトリック大学が、ゲールの精神障害者里親制度を管理運営する国立コロニーの協力のもとで行った学際的な共同研究「ゲール・ファミリーケア調査プロジェクト」（1966～1975年）でした。このプロジェクトに関する膨大な資料が、ニューヨーク州北部の街ジェネーヴァにあるホバート・アンド・ウィリアム・スミス・カレッジ（HWS）に保存されています。数年前に私がそこで閲覧した1970年の研究計画書によると、研究領域は大きく5つ（患者の動向、ファミリー・ケアの構造、ファミリー・ケアの過去と現在、ゲールのコミュニティ、ゲールに関するイメージ）に分かれ、さらに、それぞれの研究領域には5から10程度の詳細な研究課題が挙げられています。これだけの研究を行うためにアメリカとベルギーとの双方から相当数のスタッフが参加し、10年間にわたる巨大プロジェクトが可能になったのは、ムーアが設立した財団が提供した資金があったからです。

この研究の成果はさまざまな形で公表されています。今日のゲールに対するイメージは、これらに負うところが大きいと言えるでしょう。1977年に出版されたルーヴァン・カトリック大学の人類学者E・ローゼンスによる『ゲール：精神医学のなかのユニークな存在（オランダ語原題：Een Unicum in de Psychiatrie）』が代表的なものです。これはローゼンス自身が参加していたゲール・ファミリーケア調査プロジェクトのフィールドワークに基づくものです。

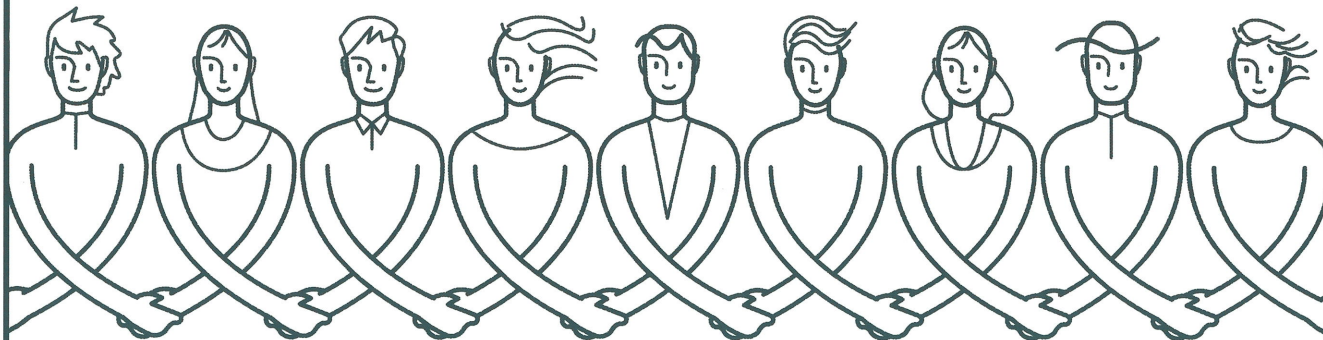
ローゼンスの著書はわが国にも影響を与えました。1979年には英語版（“Mental Patients in Town Life”）が出されましたが、それを和訳して1981年に出されたのが『ギールの街の人々』（寺嶋正吾訳、「ギール」は英語の発音）です。その翌年の日本精神神経学会で「岩倉村と京都の精神医療」というタイトルで会長講演を行った京都府立医科大学の加藤伸勝は、『ギールの街の人々』の内容を引用しながら岩倉とゲールの家庭的看護の歴史を比較検討しています。一方、この本は精神医療関係者だけではなく、さまざまな分野の読者にゲールを強く印象づけることになったようです。たとえば、ベトナム戦争の取材で知られるジャーナリストの岡村昭彦は、『ギールの街の人々』を持参してゲールに行き、雑誌『看護教育』（1984年）にその訪問記を書いていますし、「東北学」を提唱した民俗学者の赤坂憲雄は『別冊宝島 精神病を知る本』（1986年）の中で、この本の記述をもとにゲールを紹介しました。

こうして、1980年代にはアメリカや日本だけでなく、ヨーロッパでもゲールが再発見されていきます。とはいえ、既に述べたように、里親のもとに暮らす患者の減少は止まらず、相変わらずゲールの危機が去ったとは言えません。にもかかわらず、現在のゲールは元気なのです。その秘密について次回お話ししたいと思います。

（第10話につづく）

Lilly

ひとりひとりの輝くあしたへ。



いっしょに、道を広げましょう。これまでも、これからも。

イーライリリーは精神科医療の向上と、
精神障害に対する「偏見」や「差別」を
なくすための活動を支援してゆきます。

www.schizophrenia.co.jp

(統合失調症に関する一般の方向けサイト)

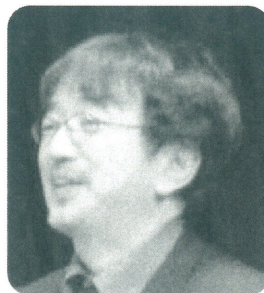
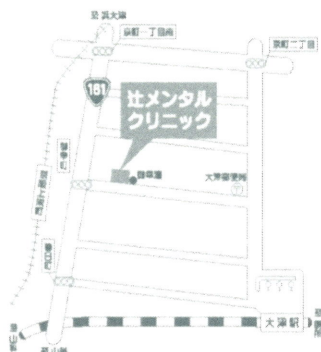
リリーの情報はインターネットでご覧になれます。<http://www.lilly.co.jp>

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5

辻メンタルクリニック

24年5月に開院しました。不眠症、うつ、パニック障害、社会不安障害、ストレス障害、職場のメンタルヘルス、女性のメンタルヘルス、認知症対策、お気軽にご相談下さい。診療は完全予約制となっております。まずは、お電話にてご予約ください。

JR大津駅より徒歩7分、京阪電車上栄町駅より徒歩5分、無料駐車場2台。



院長 辻 元宏 (つじ もとひろ)

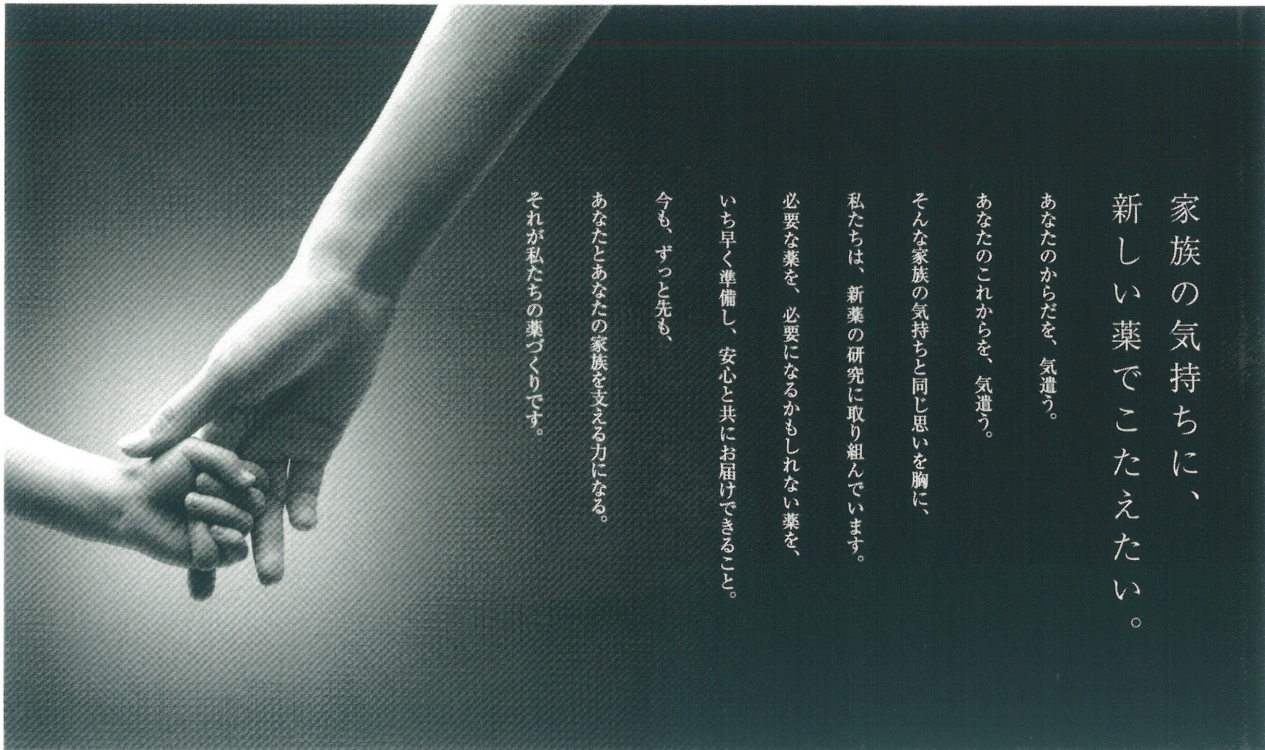
〒520-0057 大津市御幸町2-2 電話 077-510-0567

辻メンタルクリニックでは、「保健・福祉を統合した科学的な医療と文化に根ざした患者本位の社会復帰」を、治療の基本として考えて、治療を行っていきます。

当クリニックでは、医師が一方的に治療を進めていくことはありません。

患者さんは「一人の人間」として、医師は患者さんの問題解決を援助するスタッフとして、患者さんが求める自己実現のための、説明や話し合いを重ねてまいります。

ご来院を心よりお待ちしております。



家族の気持ちに、
新しい薬でこたえたい。

あなたのからだを、
気遣う。

あなたのこれからを、
気遣う。

そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に、

私たちは、新薬の研究に取り組んでいます。

必要な薬を、必要になるかもしれない薬を、

いち早く準備し、安心と共にお届けできること。

今も、ずっと先も、

あなたとあなたの家族を支える力になる。

それが私たちの薬づくりです。

 大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp

大塚製薬株式会社
徳島研究所(Hi-zタワー)
岡本太郎画伯
「いのち踊る」瀬戸内寂庵命名



Otsuka-people creating new products
for better health worldwide



Otsuka 大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

平成24年度 一般科・精神科連携促進事業(滋賀県委託事業)
「市民と一般科のためのうつ病講座」

【趣旨】 自殺の直前には多くの方がうつ状態であるといわれています。
うつ状態の方は、内科等のかかりつけ医にかかることが多いとされていることから、一般科と精神科の連携は重要であると言えます。
また今年、うつ病治療のガイドラインが作られ、医師だけでなく医療ユーザーである一般市民にも理解が広がることによって、より効果的なうつ病治療が行われ、自殺対策の一助になることを目的に講座を開催します。

開催日/場所… 平成25年 1月24日(木) 甲賀保健所(第1会議室)
2月 7日(木) 近江八幡市人権センター
2月14日(木) ひこね燦ばれず(研修室1)
2月21日(木) 草津市立市民交流プラザ(フェリエ5F)
2月28日(木) 安曇川公民館(カルチャールーム)
3月 7日(木) 大津市生涯学習センター
3月14日(木) 長浜勤労者総合福祉センター 臨湖

時 間… 2月21日(木)は15:00~16:30 その他は14:00~15:30です。

主 催…滋賀県精神保健福祉協会

共 催…滋賀医科大学

講 師…滋賀医科大学から派遣

内 容…うつ病治療についての解説と質疑応答

対 象…うつ病患者とその家族、一般科・精神科医、医療従事者

申込み…前日までの電話申込み必要

申込先…滋賀県精神保健福祉協会 TEL 077-567-5250

参加
無料



gsk
GlaxoSmithKline
生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

グラクソ・スミスクラインは、研究に基盤を置く世界をリードする製薬企業です。中枢神経領域、呼吸器領域、ウイルス感染症、がん治療領域などの医療用医薬品やワクチン、「コンタック」「アクアフレッシュ」「ポリデント」などのコンシューマーヘルスケア製品を通じて、人々がより充実して心身ともに健康で長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としています。

グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
<http://glaxosmithkline.co.jp>

守山野洲医師会

「一般科・精神科連携促進のための研修会」報告



講師 稲垣貴彦氏

座長 北野 充氏

平成24年11月29日、ライズヴィル都賀山において、滋賀医科大学地域精神医療学講座の稲垣貴彦先生による「老人性のうつ病について」と題して、一般科医師対象の講演が行われました。

～日常診療で出会ううつ病のご老人～というサブタイトルで、

- ① なぜ老人性のうつ病について学ばなければならないのか。
- ② 目の前にいるうつ病の患者さんはどんな感じなのか。
- ③ 治療はどうすれば良いのか。

という3つの観点からのお話がありました。

基本的に、老人の方はうつ病の可能性が非常に高く、認知症の6倍とされている。診断が認知症かうつ病かでは、予後が全然変わって来るので、認知症をうつ病としてはいけない。治療する上では、抗うつ剤を使って効果が認められない場合、遠慮なく精神科に紹介して下さい、という内容でした。

講演後、質疑応答の時間があり、新型うつとはうつ病の初期なのでしょうか、という質問に対して、「そもそも日本うつ病学会では『新型うつ』の存在を認めておらず、それは軽症のうつ病なのです。うつ病には軽症、中等症、重症とあり、これまでは軽症のうつ病は受診につながって来なかったため奇異な印象を受け、『新型うつ』とされたようである。また、適応障害は強いストレスがかかったか、ストレスに対して弱くて些細なストレスで不調を来して且つストレスに弱くなる他の原因がない状態のことであり、うつ病ではない。老人のうつ病と躁うつ病はどちらが多いのかという質問には、躁うつ病は基本的に若年発症である。ただ、躁があまり目立たない人が高齢まで気づかれずに残っているとか、抗うつ薬を使ったことで躁が現れるということはある」という答えでした。

この他、一般科医にとってうつ病と診断を下す難しさや治療につなげる動機づけの仕方について等、忌憚のない本音でのやり取りがありました。

最後に、「滋賀県は精神医療機関が日本で一番少ない県の一つで、精神疾患の患者をすべて精神科医療機関でカバーするには無理がある。G-P（一般科・精神科）ネットの果たさなければいけない役割は、県の医療制度上、大変重要な位置を占めて来ると思う。」という講師の言葉で締めくくられました。

滋賀県精神保健福祉協会事務局 澤田とし江

伝言板

笑ってメンヘル滋賀 初笑い落語家さんと遊ぼう Part 11

日時…平成25年1月26日(土) 14:00~16:00

場所…ひこね燦パレス

内容…落語/笑福亭生喬さん、笑福亭生寿さん
その他 漫才、パフォーマンスなど

参加費…500円

連絡先…笑ってメンヘル滋賀事務局 TEL:0749-21-2192

自殺対策のためのつどい

日時…平成25年2月7日(木) 13:00~18:00

場所…ひこね市文化プラザ エコーホール

講演…清水康之氏
(NPO法人自殺対策支援センター ライフリンク代表)

演題…“自殺社会”から“生き心地のよい社会”へ

シンポジウム…チームで取り組む自殺対策

主催…湖東地域こころのケアチーム研究会・彦根医師会

後援…滋賀県、彦根市

連絡先…地域生活支援センターまな
TEL:0749-21-2192

参加無料

滋賀県自殺未遂者対策検討講演会

日時…平成25年2月9日(土) 18:00~

場所…草津市立まちづくりセンター

講師…河西千秋先生
(横浜市立大学医学群社会医科学系 健康増進科学教授
・横浜市立大学保健管理センター センター長)

演題…自殺未遂者の再度の自殺を防ぐ

主催…滋賀県精神神経科診療所協会・日本精神神経科診療所協会

後援…滋賀県(日本精神神経学会専門医ポイント認定対象事業)

連絡先…南彦根クリニック TEL:0749-24-7808

参加無料

こころの会 例会

日時…平成25年2月10日(日) 13:00~15:00

場所…県立男女共同参画センター研修室B
(JR近江八幡駅南口 徒歩10分)

内容…現在悩んでいること、薬のこと、病気のこと、等

申込み…「こころの会」蒲生郡日野町木津192(事務局代表 吉澤康雄)
TEL/FAX 0748-52-2918 (この会は患者会です)

滋賀県断酒同友会主催 市民公開セミナー 「アルコール依存と自殺問題」

日時…平成25年2月10日(日) 13:00~16:00

場所…滋賀県立男女共同参画センター(G-ネット滋賀)大ホール

内容…基調講演「アルコールと関連する自殺をなくすために」
講師:東布施辻本クリニック院長 辻本士郎氏
体験発表、パネルディスカッション

対象者…一般市民、酒害者会員・家族、行政、医療他

連絡先…滋賀県断酒同友会事務局 TEL&FAX 0749-55-0661

参加無料

平成24年度 ピアサポーター活動フォーラム 「滋賀県のピア活動~ピアサポーターの価値について~」

日時…平成25年2月23日(土) 13:30~16:30

場所…草津市立まちづくりセンター301、302号室

内容…第1部 講演「ピア活動ってなに?~ピアの価値について考える~」
講師:精神科医 辻本 哲士
(滋賀県立精神保健福祉センター)

第2部 ピア活動の紹介・体験談「わたしにとって、ピア活動とは?」
第3部 パネルディスカッション「~ピアの価値について、一緒に考えませんか~」

主催…サタデーピア、やすらぎ、滋賀県立精神保健福祉センター

問合せ…滋賀県立精神保健福祉センター TEL 077-567-5010

参加無料

編集後記

◆シャープは2012年度4500億円の赤字見通しで存続の危機だとか。パナソニックも7650億円の赤字見通しで社長自らが「もはやうちは負け組」と認める事態。日本の誇るべき優秀な製造業はどうなってしまったのでしょうか。私個人としては、焼け石に水と分かっているけど、せめて日本ブランドのスマートフォンをかうように周囲に勧めたいです。

◆その中で、山中教授のiPS細胞開発に対するノーベル医学・生理学賞受賞のニュースは、わが国の科学技術の潜在能力の高さを示してくれました。ともすれば自信喪失になりがちな昨今の日本の社会に希望を与えてくれる数少ない話題の一つだったと思います。

◆暗い世相を反映して人々の判断は極端に走りがちです。12/16衆議院総選挙の結果、自公両党で全議席の2/3議席を超える圧勝となりました。一方民主党は現職閣僚が次々と落選する惨敗でした。3年3か月前に政権交代を成し遂げ、新しい政治への期待が強かっただけにその失望感は大きかったと言えます。オセロゲームのように、ガラツと入れ替わるさまは、ゲームとしての面白さはあっても、その極端な振れに不安を抱かずにはおられません。

◆投票率は59・32%で、戦後最低だったそうです。民主党には怒り怒りしても、乱立する政党の中で投票行動をためらった有権者が多かったようです。昨年4月、栃木県鹿沼市で登校児童の列にクレーン車が突入して、小学生6名が死亡する事故がありました。運転者にてんかん発作を認めたことから、警察庁ではてんかんなど運転に支障を及ぼす恐れのある発作を伴う病気の患者の運転免許制度について検討してきました。10月25日にまとめられた報告書では、持病に関して虚偽申告で免許を取得・更新した場合の罰則新設が提言されました。さらに、交通事故遺族の約20万人の署名を背景に、担当医師の通報義務化が検討されました。しかし、医師の守秘義務の問題や治療関係への配慮から、最終的には医師が任意で警察側に情報提供する制度の導入という提言となっています。被害遺族の訴えは重いものですが、厳罰化を求める空気のままに極端な法改正に至らないことを願っています。

◆今年7月大阪地裁で、アスペルガー症候群を有するとされる42歳の男性による家族殺害事件に対して、求刑懲役16年を上回る懲役20年の判決が出ました。その理由はアスペルガー症候群により十分な反省のないまま社会復帰すれば再犯の恐れがあること。さらにアスペルガー症候群に対応する受け皿がなく、今後も見込めないため、許される限り長期刑務所に収容する必要があるということでした。アスペルガー症候群に再犯の可能性が高いというデータはないし、発達障害者支援センターを中心に社会生活支援の体制を整えつつある中で、偏見に基づいた驚くべき判決です。裁判員裁判の危うさが露出したものと思いますが、時代の空気がこのような極端な判断を推し進めないことを祈ります。

(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

会員数

平成24年12月21日現在

一般会員	個人会員	130名
	団体会員	35団体
賛助会員	個人会員	9名
	団体会員	7団体
サポート会員		4団体